



インドネシア

20 ハサンサディキン病院 改善事業

西ジャワ州のハサンサディキン病院の施設整備等を行うことにより、中核となる病院(トップ・リファレル病院)としての機能の拡充・改善を図り、もって地域医療の改善を通じ同地域の貧困削減への対応強化および地方開発に寄与する。

承諾額/実行額 47億700万円 / 46億1,900万円
借款契約調印 1996年12月
借款契約条件 金利2.7%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了 2001年12月



外部評価者 原口孝子(グローバル・リンク・マネージメント(株))
現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、病床不足に対応して個室病棟の建設および同棟用資機材の調達を追加したことを除き、ほぼ計画通りに救急棟および中央手術棟の建設、資機材調達、職員研修が実施された。期間は、ほぼ計画通りで、事業費はインフレを上回る現地通貨の減価などにより計画を下回った。事業実施前後の1996年と2002年を比較すると、一次医療施設の充実や、広範囲の人々に効率的に治療を行うためのピラミッド型の医療制度であるリファレルシステムの改善がみられ、ハサンサディキン病院の救急外来患者数は96年の3万634人から02年には2万9,783人へと2.8%減少し、手術件数は1万3,114件から1万1,827件へと9.8%減少した。他方、他病院からの搬送は6%から14%へ、高度手術の割合は28%から42%へ、死亡率は6.1%から5.5%へと、いずれも改善されており、同病院のトップ・リファレル病院としての機能は拡充、改善されている。さらに、他病院職員のOJT(実地研修)を通じて、地域の医療従事者の充実にも貢献している。新病

棟(個室病棟)の設置は、病院収入増加に貢献し、収入増加は貧困層医療の充実にも役立っており、一般外来患者の2~5%、救急外来患者の15~20%は医療費免除対象の貧困者である。同病院の技術および体制面は問題なく、財務面でも90年代から収支は均衡しており、02年には診療収入が国の補助金を上回っている。本事業の教訓としては、01年における同病院の国有企業化に伴い、質の高い医療に対する報酬が引き上げられたことが、診療収入の増加を促し、財務面での持続性向上につながったことが挙げられる。

第三者意見

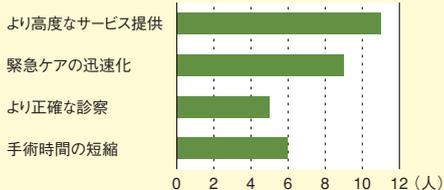
国有企業となったハサンサディキン病院は、経営改革を行い、診療収入が増加した。同時に、政府の政策に沿って貧困層へのサービス拡充にも努めている。

有識者 Mr. Syafruddin Karimi

フロリダ州立大学博士課程修了(経済学)。現在アンタラス大学経済学部教授。専門は水資源、貿易、コミュニティ開発、開発問題など。

受益者調査

事業実施前後で特に改善した点
(病院スタッフ回答)



病院スタッフに受益者調査を行ったところ、事業実施前後で特に改善した点として、高度なサービスの提供および救急ケアの改善等が挙げられた。

質問に「はい」と答えた患者の割合
(該当者のみ)



患者またはその家族にインタビューを行ったところ、事業実施前にも病院を利用したことがある患者(回答者の約半数)からは、手術や救急ケアなど技術面での改善について肯定的な意見が聞かれた。また、調査をした患者全員からは、他の病院より良い点の一つとしてGICUのサービスが挙げられた。



本事業で建設された一般集中治療室(GICU)